

佐原 沢

一九七七年十月九日

◆天気(晴)

大平温泉で身仕度をして七時ジャストに遡行開始。

西・安田・菅野の順に進む。一五分位遡行したところで三〇位の滝に出くわしたがわけなく直登した。木の葉も落ちかけ、秋の終わりを感じさせ、ふれる水も冷たく夏のごち良さとはまるで違う。

ゴルジュがしばらく続く。次の小滝で左岸を高捲きしF2五^{トイ}直下の枝沢ぞいにおりる。F2とそれに続く二つの小滝を直登し七時四二分F3三〇^{トイ}にさしかかる。とても直登は無理。右岸をなるべく小さく捲き沢に降りた。八時F4七^{トイ}にさしかかる。この直前右側から小沢が合流している。F4を直登し一〇分たらずでF5四〇^{トイ}に出くわした。少しハングミ。水量は少ないが直登はとも無理である。右岸を捲き沢に降りた所がF6二〇^{トイ}の階段状の滝。すみやかに直登し終わると水量もぐんと減り、もう沢も終わりに近づいた感じで



佐原沢・F3

ある。九時二一分二俣につく。

この先何もないことはわかっているし、もう既に目的は達したので左の沢を少し登って、九時三五分ヤブこぎに入る。約五〇分で登山道に出る。(記・)

(タイム)

大平温泉七〇〇―二俣九二〇―沢終了九三三五

明 道 沢

一九七六年九月五日

◆天気(曇のち晴)

不忘閣ヒユツテから今は廃道だが少し前までは良く利用されたと思われる登山道を歩いて明道沢へ。

明道沢に入るとすぐF1二軒、F2四軒と滝が続く。幸先が良いと先の沢を楽しみにしつつ登ってゆく。左岸から小沢が合流。大きな堆石の山を持ち奥に滝が見える。本流はここから左へ曲がってゆく。三〇分程登ると砂防ダム。地図にはここまでに二つの滝の記号があるが実際には見当たらない。また一〇分程で砂防ダム。ここにも地図では確かに滝の記号がついている。これではこの先の廻行が思いやられる。

軽い昼食をとり気を取り直して出発。一〇時三〇分F3一五軒。初めての滝らしい滝である。左岸を直登。上部はかすかにオーバーハンングで充分気をつけての直登である。ここより一時間先で三本の排水パイプを見る。沢幅も狭くなり源流のようなので、適当な所でヤブこぎ。三〇分程で天元台第三リフト途中の登山道に出る。

(記・)

[タイム]

明道沢出合九〇〇—登山道九〇五五—沢終了一二二

〇〇—天元台一三〇一〇

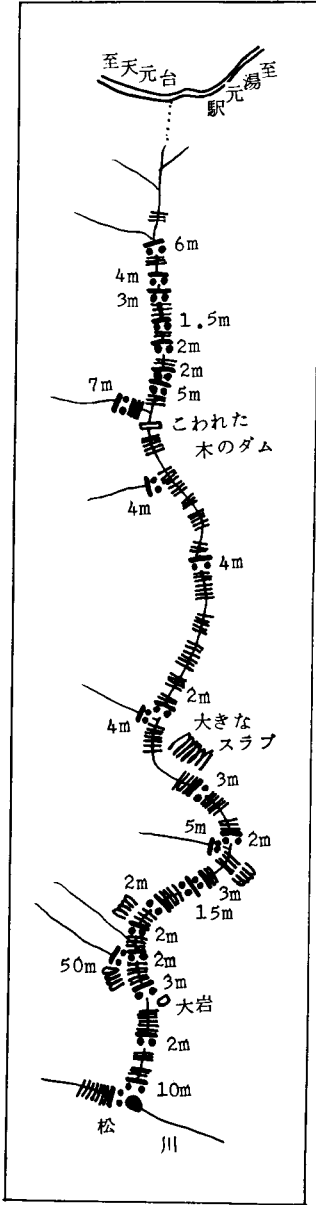


明道沢の廻行

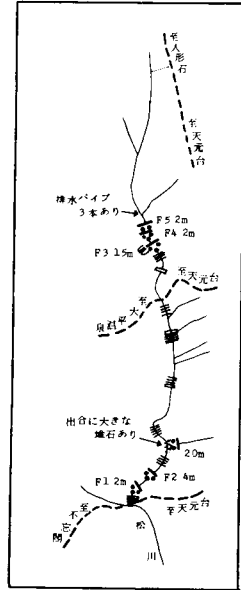
◆天気(晴)

矢 沢

一九七八年九月十日



矢 沢 (作図:)



明道沢 (作図:)

松川本流をさかのぼって、八時四〇分矢沢出合に着く。矢沢の水はすっぱくて飲用には不適。出合からナメが断続する。一〇分余りで右岸から小沢が五〇メートル程の滝をかけて合流。矢沢の水がすっぱいのはこの小沢の水のせい。ここから上流は充分飲用に耐える。ここからも小滝をまじえてナメが続く。やがて一五メートルの滝。左岸を小さく捲く。この先も五〇〜一〇〇メートルの長さのナメが次々に出てくる。沢幅はせまいものの傾斜はゆるやかなので、ペースは早い。左岸に大きなスラブを見ながら、なおも断続するナメを登る。一〇時二五分、今はこわれ去った木製のダムを越えて二俣に着く。左俣は七メートルの滝がかかるが、楽に登れそう。右俣にルートをとる。五メートルの小